

令和 4 年 6 月 20 日現在

機関番号：25403

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17H02363

研究課題名(和文) 共通教育期間を通じた英語力向上のための多様な大学環境でのeラーニングマネジメント

研究課題名(英文) A study of e-learning management to help improve English abilities throughout the liberal arts education period in various university settings

研究代表者

青木 信之 (AOKI, Nobuyuki)

広島市立大学・国際学部・教授

研究者番号：80202472

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、国公立6大学において同一英語eラーニングシステム及びラーニングマネジメントシステムを用い、以下の2つを大きな目的として実施した。大学生の長期休暇期間中の英語力低下の程度について測定することと長期休暇期間中における英語eラーニングシステムの活用可能性について探ることである。各大学において長期休暇中に英語eラーニングを実施した結果、単位を伴う学期中の学習に比べて、教材消化率や学習時間はかなり低下したものの、休暇後に実施したTOEIC等の成績では、受講した学生の英語力は少なくとも低下していないということと、学習管理等がなされた場合はかなりの英語力の向上が認められることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は一義的には、授業期間及び長期休暇期間を通じた英語力の維持・向上について取り組んだものであるが、大学英語教育全体について、実際のデータをもとに大きな問題提起を行った点に社会的意義があると考えられる。つまり、長期休暇期間における英語力低下の実態、そして豊富なリソースをもたない昨今の大学教育環境において、特に留学等にも参加できない多くの学生に対して、授業も合わせて大学がどういった支援ができるのか、こういった問題提起とともに一つの解決策を探るものにつながったと思われる。

研究成果の概要(英文)：This study was conducted in 6 universities (3 national, 1 prefectural, 1 municipal and 1 private universities) using the same English e-learning system and the same e-learning management system with two research purposes: to measure the decline in English abilities after a long vacation and to explore the possibilities of using English e-learning to prevent such decline. As a result of offering an English e-learning program during the summer break, it was shown that the participants' English abilities didn't decline but stayed the same and that when the proper learning management was in place, their English abilities improved considerably.

研究分野：英語教育

キーワード：eラーニング 英語教育 共通教育 英語力低下

1. 研究開始当初の背景

本申請で使用する英語 e ラーニングシステム及び LMS は、申請代表者が勤務する広島市立大学において 17 年前から開発、実施、改良を続けているものである。このシステムは、コンピュータネットワークを通じてリーディング、リスニング、文法問題等を大量に学習するものであり、受講者は約 8 週間、毎日約 1 時間コンピュータの前で学習し、受講前後に受験する TOEIC で自身の英語力の向上を確認する。その結果、例えば広島市立大学国際学部学生の場合、受講前 TOEIC スコア平均約 450 点から 8 週間の受講で平均 80 点ほど向上し、英語にそれほど関心のない情報科学部・芸術学部でも 50 点ほどの伸びをみせる。

申請代表者は、平成 18～20 年度科学研究費補助金「多様な大学環境における英語 e ラーニングの効果とラーニングマネジメントの研究」において、九州大学、広島大学をはじめとする国公立 5 大学で上述の英語 e ラーニングシステムを用い、その学習効果について研究を行った。学生の自主的な管理にまかせる自学習型、自学習に加えて週に 1 度教師との対面授業を交えるブレンディング型など、大学により学習環境やラーニングマネジメントは様々であったが、自学習型、ブレンディング型を問わず、英語力が向上している学習者の特徴として、学習量が豊富なこと、学習がコンスタントなこと、適切に学習していることなどがみられた。逆に、英語力の向上がみられなかった学習者については、学習量をこなしておらず、締め切り間際の駆け込み消化が多く、英文をしっかりと読まないあるいは音声をしっかりと聞いていないなどの不真面目な教材消化が指摘された。つまり、学習の「量」「質」「継続性」をいかにきちんと確保できているかが学習の成否を分けていることが明らかになってきた。

このような研究結果を踏まえ、平成 21～23 年度科学研究費補助金「多様な大学環境における英語 e ラーニングの学習の量と質を向上させるラーニングマネジメントの研究」においては、学習の「量」「質」「継続性」を向上させるためのラーニングマネジメントのあり方を明らかにすることを目的に、九州大学、名古屋大学をはじめとする国公立 7 大学で、上述の同一英語 e ラーニングシステム及び LMS を用いて、ラーニングマネジメントのあり方を探った。大学によって様々に異なるラーニングマネジメントの効果と比較した結果、比較的短い間隔で学習進行を管理すること、つまり単なる学習ノルマ設定よりは月単位の管理、月単位の管理よりは週単位の管理のほうが量的に豊富な学習を担保することや、一定期間ごとに学習したことのテストを行ったほうが質的により適切な学習につながることなど、より厳しい学習管理が有効であることが明らかになった。

このように授業期間中の英語 e ラーニングをいかに効果的に実施するかについては、本研究チームは大きく研究を進めてきた。しかし、授業期間を超え、長期休暇期間も含めて、例えば共通(基礎)教育の終わる 2 年終了時にしっかりとした英語力を身につけさせることができているかという点については、検討すべき点がまだ多くある。英語に限らず外国語の力は、学習し続けるあるいは使い続けないと衰えることは、誰もが実感として知っている。しかし、長い夏季休暇や春季休暇も通じて、学生の英語力維持や向上について、大学が主体的に取り組んでいる例を寡聞にして知らない。長期休暇期間中の英語力の維持・向上については、多くの場合、学生個人に委ねられているのが現状であろう。大学としては昨今のグローバル人材育成という方向もあり、学生には特に海外に出ていき、外国語力も合わせて伸ばして欲しいと願っている。しかし、実際には多くの学生にとって、1 ヶ月以上にわたる海外語学研修等に参加することは、経済的に困難な場合が多い。また、一度行ったからといっても、毎年長期休暇ごとに行けるわけではない。

大学生生活全体を通じて、あるいは少なくとも共通(基礎)教育期間が主体の1、2年時を通じて、全学生に対してどのように英語力を維持させるか、さらに向上させることができるかは、当然、授業期間だけの問題ではない。しかし、ほとんどの大学は長期休暇期間中の英語力低下という現実を直視してはいないし、実際にそのことに対して、教員をはじめとした多くのリソースを割けるわけでもない。

こういった現状において、海外語学研修等に参加できない多く学生にとっても、長期休暇期間中は研究業務に専念しなければならない教員にとっても、そして多大なリソースをそこに割くことができない大学にとっても、この長期休暇期間中の英語力維持・向上に対して、英語eラーニングをどのように活用できるかは検討に値するであろう。これが本研究の背景である。

2. 研究の目的

これまでの研究実績及び研究環境を活用して、大学生の長期休暇期間中の英語力低下の程度について測定すること、さらに長期休暇期間中における英語力維持・向上のための、英語eラーニングシステムの活用可能性について探ることを目的として研究を実施した。

3. 研究の方法

1)これまで授業期間中の事前事後に行っていた TOEIC 等の標準テストをさらに休暇期間後にも実施し、夏季休暇、春季休暇など長期休暇期間中の大学生の英語力低下の程度について測定した。2)全大学において、同一の英語eラーニングシステムを実施し、休暇期間中の英語力維持・向上について調査した。3)これまでの本研究チームの知見を活用し、学習ペースの管理について、学習ノルマ、細かい締切りの設定、また中間テスト等を用いて、休暇中の有効な学習マネジメントのあり方について探る。

4. 研究成果

本研究の結果、1)長期休暇期間中に大学主催の英語授業に参加を希望する学生はそれほど多くないこと、2)自主的に参加した学生でも教材消化率や学習時間は低い傾向があること、3)一方で、教材消化率等は低くても他の学生に比べて英語力の低下は少なくとも防げていたこと、4)また再試資格などなんらかの単位取得と関係し、学習管理がなされた場合は、かなりの英語力向上がみられたこと、5)しかし、アンケート結果では自主的に参加した学生達の多くは、教員による学習管理を望んでいないこと、などが明らかになった。

豊富なリソースをもたない昨今の大学教育環境において、また留学等にも参加できない多くの学生に対して、長期休暇期間における英語力低下に対して大学がこういった支援ができるのか、こういった問題提起とともに一つの解決策をさらに探っていきたいと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 池上真人、青木信之、渡辺智恵	4. 巻 39 (1)
2. 論文標題 並べ替え学習ソフトによる帰納的文法学習	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 言語文化研究（松山大学総合研究所）	6. 最初と最後の頁 23-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 江村健介、高橋英也	4. 巻 14
2. 論文標題 eラーニングを用いた完全自習型科目「英語基礎演習III・IV」 - 現状と今後の課題について -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 リベラル・アーツ（岩手県立大学高等教育推進センター研究紀要）	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 江村健介、高橋英也	4. 巻 15
2. 論文標題 学習管理システムから見る英語e-learningの有効性について—二期連続受講における前・後期の違いに焦点を当てて—	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 リベラル・アーツ（岩手県立大学高等教育推進センター研究紀要）	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 青木信之、渡辺智恵、池上真人	4. 巻 26
2. 論文標題 英語力の推移からみた大学共通教育としての英語教育の課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 広島国際研究（広島市立大学国際学部研究紀要）	6. 最初と最後の頁 59-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 江村健介、高橋英也	4. 巻 16
2. 論文標題 日本人大学生の長期休暇中の英語力の変化について－学習管理が及ぼす影響－	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 リベラル・アーツ（岩手県立大学高等教育推進センター研究紀要）	6. 最初と最後の頁 71-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 青木信之、鈴木繁夫、渡辺智恵、池上真人、松原緑、榎田一路、寺嶋健史、汪曙東、高橋英也、阪上辰也、江村健介
2. 発表標題 共通教育期間を通じた英語力の維持・向上に向けて（その2）－長期休暇中の英語学習の実態とeラーニング活用の可能性－
3. 学会等名 FLEAT 7 (International Conference on Foreign Language Education and Technology) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 青木信之、渡辺智恵、池上真人
2. 発表標題 大学共通教育期間を通じたeラーニングの効果－TOEICと学習履歴から－
3. 学会等名 全国英語教育学会第45回弘前研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 青木信之、渡辺智恵、池上真人
2. 発表標題 並べ替え学習ソフトによる帰納的文法学習 - 小学校英語学習者を対象に -
3. 学会等名 第18回小学校英語教育学会（長崎大会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 青木信之、鈴木繁夫、渡辺智恵、池上真人、松原緑、榎田一路、寺嶋健史、汪曙東、高橋英也、阪上辰也、江村健介
2. 発表標題 共通教育期間を通じた英語力の維持・向上に向けてー長期休暇中の英語学習の実態とeラーニング活用の可能性ー
3. 学会等名 外国語教育メディア学会（LET）第58回全国研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 青木信之、渡辺智恵、池上真人
2. 発表標題 社会人英語eラーニング講座におけるコミュニティについてー掲示板書き込みの分析からー
3. 学会等名 日本生涯教育学会第39回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 青木信之、渡辺智恵
2. 発表標題 社会人英語eラーニング講座におけるコミュニティについてー掲示板書き込みの分析からー
3. 学会等名 日本生涯教育学会第39回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 青木信之、鈴木繁夫、渡辺智恵、池上真人、松原緑、榎田一路、寺嶋健史、汪曙東、高橋英也、阪上辰也、江村健介
2. 発表標題 共通教育期間を通じた英語力の維持・向上に向けてー長期休暇中の英語学習の実態とeラーニング活用の可能性ー
3. 学会等名 外国語教育メディア学会第58回全国研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 青木信之、渡辺智恵、池上真人
2. 発表標題 並べ替え学習ソフトによる帰納的文法学習－小学校英語学習者を対象に－
3. 学会等名 第18回小学校英語教育学会（長崎大会）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 渡辺智恵、青木信之	4. 発行年 2019年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 pp.11-25
3. 書名 英語eラーニングにおける学習行動と学習管理『複数の「感覚・言語・文化」のインターフェイス』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	鈴木 繁夫 (SUZUKI Shigeo) (50162946)	名古屋大学・国際言語文化研究科・名誉教授 (13901)	
研究分担者	渡辺 智恵 (WATANABE Tomoe) (80275396)	広島市立大学・国際学部・教授 (25403)	
研究分担者	池上 真人 (IKEGAMI Masato) (60420759)	松山大学・経営学部・教授 (36301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松原 緑 (MATSUBARA Midori) (00547036)	名古屋大学・教養教育院・准教授 (13901)	
研究分担者	榎田 一路 (ENOKIDA Kazumichi) (20268668)	広島大学・外国語教育研究センター・准教授 (15401)	
研究分担者	寺嶋 健史 (TERASHIMA Takeshi) (90368845)	松山大学・人文学部・准教授 (36301)	
研究分担者	汪 曙東 (WANG Shudong) (50435046)	島根大学・学術研究院教育研究推進学系・准教授 (15201)	
研究分担者	高橋 英也 (TAKAHASHI Hideya) (90312636)	岩手県立大学・公私立大学の部局等・准教授 (21201)	
研究分担者	阪上 辰也 (SAKAUE Tatsuya) (60512621)	広島大学・外国語教育研究センター・准教授 (15401)	
研究分担者	江村 健介 (EMURA Kensuke) (60757128)	岩手県立大学・公私立大学の部局等・助教 (21201)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------